

佐賀県保険医新聞



住江憲勇保団連会長(左)より福岡資磨議員(右)に要請を行った

医科・歯科診療所も含め、すべての医療機関に対応を

福岡資磨議員に要請・懇談

保団連の住江憲勇会長は12月8日、自民党政務調査会厚生労働部会の福岡資磨部会長(参院議員)と懇談し、すべての医療機関に対する迅速な減収補填と、75歳以上の窓口負担2割導入などの患者負担増の中止を求め要請した。佐賀協会からは藤戸好典会長、新井良一、中山利浩副会長、梅津健太郎・千葉研介・野田芳隆各常任理事がWebで参加した。

受診抑制が深刻化し、多くの歯科医院が減収により経営逼迫に陥った。また医療用のマスクやグローブの供給も滞っている。現場の実態を訴えた。保団連の住江会長は、新型コロナウイルス感染症の第3波が到来し、各地で感染者数が過去最大を記録する中、医療機関ではより一層の患者減、収入減が予想される。地域医療を支え、医療提供体制を確保するためにすべての医療機関に減収補填を迅速に行う必要があると訴えた。また、受診抑制をさらに深刻化させ、高齢者の命、健康を脅かす75歳以上の医療費窓口負担2割化は中止を求めた。

福岡議員は、負担増について、現役世代と高齢者負担のバランスをどうとるのが焦点となっている。高齢者は当然有病率が高く、家計の負担は今の1割でも十分重いのが承知している。要請は重く受け止める述べた。減収補填については、第3次補正予算での対応を詰めていることと、第2次補正予算の準備費7兆円も活用したいと述べた。要請内容は下記の通り(事務局)



佐賀協会は Zoom を利用して参加した

忘れてませんか？ 必ず申請を！

感染拡大防止等支援事業(病院200万円+5万円×病床数、無床診(医・歯)100万円、有床診(医・歯)200万円、訪看・薬局70万円)

【補助対象】

水道光熱費、通信費、火災保険等の保険料、人材派遣・委託料、診療所の家賃、機器リース料など、非常に幅広く認められています。

【申請書記載項目】

補助対象であれば、申請書に記載していない項目も認められます。

【証拠書類】

実績報告の際には証拠書類として明細書を提出してください。領収書、納品書、請求書は医療機関で保管しておいてください。

【申請の締切】

今のところ12月28日までですが、その後であっても相談されてください。

(※佐賀県慰労金・支援金コールセンター：0952-41-2300)

協会からの心ばかりの贈り物

消毒用アルコール・マスクをお送りします

当協会では、会員の皆様方のコロナ感染防止にわずかながらでもお手伝いできればと思い、12月24日頃に消毒用アルコール・マスクをお送りいたします。

本来なら研修会等を積極的に行って日常診療のお役に立つことを願い、協会役員・事務局一丸となって活動しているところでありますが、このコロナ禍での活動自粛により本来の十分な活動ができないのが現状です。毎月の会費をいただいておりますが十分な活動ができないこの歯がゆい思いを、いかにして会員の皆様にご理解していただけるのかを役員・事務局一同考えて、知恵を絞りました。

ぜひお役に立てていただきますようお願いいたします。ワクチン開発の朗報が複数聞かれるようになりました。1日でも早くコロナ以前の日常が戻ってきますことを、心より願っております。

佐賀県保険医協会 役員・事務局一同

要 請 内 容

【減収補填、財政措置について】

4月以降、現在までの減収に対し、

- ・空床補填、慰労金、感染防止対策費などを早期に支給すること
- ・持続化給付金、家賃補助の支給要件を緩和すること
- ・自治体独自の医療機関への支援策拡充のために、交付金の増額など国として財政措置を講じること
- ・各種支援交付金では損失を補填できない医療機関については、「医療版持続化給付金」の新設など新たな追加支援を行うこと

今後の感染者増加に向けた対策として、

- ・希望する医療機関には診療報酬の概算払いで減収を迅速に補填すること(財源は保険者が同意すれば保険財政から、同意が得られない場合は国費から支出)
- ・新型コロナウイルス感染者(疑いを含む)を受け入れている医療機関には、入院料、検査料・判断料の診療報酬を引き上げること(この部分は公費負担なので、患者の窓口負担増とはならない)
- ・新型コロナウイルス感染者を受け入れていない医療機関を含めて上記では損失が補填できない医療機関については支援交付金・助成金の拡充や延長、創設による財政措置を行うこと

【医療・介護の負担増の中止】

- 一、医療の患者負担を増やさないでください
 - ・75歳以上の窓口負担の原則1割から2割への引き上げはしないこと
 - ・紹介状なし大病院受診時定額負担を拡大しないこと
 - ・花粉症治療薬、痛み止め、漢方薬など、市販品のある薬の保険外しをしないこと
 - ・受診するたびに低額(100円または500円)を窓口負担に上乗せしないこと
- 一、介護の利用者負担を増やさないでください

協会会員数

医科 661人
 歯科 330人
 合計 991人
 (10月31日現在)

主な記事

- ・市民公開講演会「種と苗から考える食の安全」……………2面
- ・歯科研究会「医療安全対策等学習会」……………2面
- ・第186回 保団連 九州ブロック会議……………3面
- ・保団連 第16回 歯科全国交流集会……………3面
- ・経営税務「電子カルテを新調する際の優遇税制について」……………5面

曙

忘年会シーズンの到来と言いたいところだが、今年は自粛モードになりそうだが、行事で埋まるはずの12月の予定も空欄が目立つ。そういえば秋の学会も規模は縮小され、Web開催ばかりで人と接する機会が減ってしまっただけでなく、一人でもパソコンを前に学会講演を聴くのは何とも味気ない。その新しい形式の学会で、超高齢社会におけるフレイル対策の講演を拝聴した。ご存じの通りフレイルとは、高齢期に生理的予備能が低下することによって脆弱性が亢進し、やがて要介護となる危険性が増大する状態だ。自分の不勉強を晒すようだが、フレイルはサルコペニアからくる身体的なものも全てもだと思っていたところ、その講演によるところ、社会的フレイルの意義が非常に大きく、フレイルの予防には運動栄養に加え社会参加が極めて重要らしい。これを考えると、新型コロナウイルスで異なりばかりしているフレイルになる高齢者が増え、ひいては要介護者が増やしてしまうことになるのかもしれない。講演ではその解決策のひとつに高齢者が自然に社会参加でき、運動までできてしまう「まちづくり」の必要性を挙げられた▼これからはわれわれ医療者が先頭に立ち、フレイル対策を取り、行政や企業をとりまとめ、新しいまちづくりの一端まで担う時代がきたのかも。医療がますます面白くなっていく。

(佐賀市 南里 正晴)